

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173800582		
法人名	有限会社 ライフケア		
事業所名	グループホーム ひまわり		
所在地	日高郡新ひだか町静内旭町1丁目30番29号		
自己評価作成日	平成26年11月25日	評価結果市町村受理日	平成27年1月21日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=0173800582-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あおいビル7階
訪問調査日	平成 27年 1 月 21 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

本人が望む生活のスタイルを最後まで保ち続けられるよう支えている。終末期になり休む時間が増えたとしても、また、体を支えられて数歩しか歩けないとしても、ご自分の日常を、自身の意思で生活することを応援している。最後まで楽しみごとを持ち、短い時間でもその人らしい1日であるように支えきるつもりである。スタッフは力量の差があるとしても、仲間を引き上げ、全体がレベルアップできるよう努力している。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

有限会社 ふるさ

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I .理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は毎朝全員で理念を復唱して、到達するための個人目標を宣言し、仕事を始めている。理念に向かって進む姿勢を持っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の会合に職員が積極的に参加し、ホームが地域から浮き上がることがないように馴染の関係を作るよう努めている。入居者は敬老会に全員が招かれるほか、近所から野菜が届けられたり、自宅の収穫に呼ばれ、入所者が作業しに行くことがある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に近隣の方々を招き、ホームの取り組みを報告しているが、その際地域の独居老人支援、認知症老人の家族の支援の方法が話し合われることがある。包括支援センターと共に認知症サポーター育成講座を開き、理論と実技を講習している。		
4		3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には必ず参加していただき内情を知ってもらっている。日頃から相談したり、意見を求め合うこともあり良い関係である。認知症サポーター講習ではチームとして共に活動している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯上の理由もあり夜間のみ施錠しているが、それ以外では家庭で暮らすように自由に過ごしている。何が身体拘束にあたるのか職員会議の学習の時間で扱われている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の講習に参加した職員は学んだ内容を職員会議で報告し、皆で学習できるようにしている。また、職員の表情や態度に注意を払い、ストレスを溜めていないか、気分転換できているか声掛けをしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について知識を持っているのは半数に満たない。今後学んでおく課題である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時の契約については十分に時間をとって説明し、疑問に答え、同意した上での締結である。改定時にはお知らせの文章をお送りし、同意書を貰っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に「ご意見箱」を設置し、要望があれば書いて入れてもらうようにしている。また、運営推進会議に参加し自由にお考えを述べて頂いている。ご家族は気兼ねなく要望や意見を言い表せる関係である。ご要望に対しては、しっかりと話し合っており取り組んでいる。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員はホームを支える1員として提案し、意見を述べる自由な雰囲気がある。理にかなう内容は管理に反映されている。管理者は職員個人個人との接触を務めて持ち、声に耳を傾けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ストレスが溜まらないように就業時間を短くすることもある。人員配置を多くし、業務に追われることなく質の良い介護ができるよう職場環境が整えられている。様々な講習会に勤務として参加でき、学ぶ機会がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内では新人は「初任者研修」を受け実際的な訓練を受ける。また、自身の能力や性格を分析し、何が必要か考える課題も持つ。力量の差は確かにあるが、熟達したスタッフが経験の浅いスタッフを引き上げる努力がなされている。外部の研修にも参加する機会が多くある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議に出席し、同業者と情報交換をしている。広域連合が中心となりネットワーク作りや新しい取り組みが試みられている。業者間でも相互に研修の受け入れや学習会、情報交換会が開かれている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15	8	○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申し込みの相談時、家族、介護支援専門員を同席の上で、たとえ相談者が家族であっても、主体としての本人に向き合いながら、本人の気持ちを受け止めることに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人と家族の思いの違い、家族同士の中での違いも含めて、家族の体験や思いを理解しながら気持ちを受け止める。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人に会った生活をして頂くよう支援し、必要に応じて地域包括支援センターや居宅介護事業所などと連携を図っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と本人は時間をかけて関わっていく中で学ぶこと、支えてもらうことを多く感じている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は本人と家族の支援者であり、これまでの両者の関係を踏まえつつ今後より良い関係を築いていけるよう支援に努めている。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人は会いに来てくれるが、馴染みの場所が遠いこともあり連れて行けず、十分支援できてるとは言えない。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が共に助け合い、支え合って暮らしていく事の大切さを職員が理解し、話せる環境作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホーム以外の場面でも、本人家族といつでも相談などして頂ける関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来るだけ本人の希望や意向に沿うように努めているが、意思疎通が困難な場合はその人になり代わって対応している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、直近の機関等の情報をスタッフ間で共有し、入居後からの経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の心身状況に応じ、有する力を発揮しながら自分らしく暮らしていけるように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフや往診機関との意見交換をしながら心穏やかに、安全で安心して暮らせるようにしている。モニタリングは毎月行い、本人の満足度を量り介護計画を微調整している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人別の日報が記録されており、ケアの実践や結果も記入されている。工夫した点、気付いた点をスタッフ間で共有し、ケアを見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	心身の状態は日々変化していくが、本人が望むスタイルの生活を維持する為、可能な限りの手伝いを心がけている。入院中の必要な雑用や、外出の支援など細々した必要に応じている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内のイベントや自治会の行事に参加している。本人が地域の住民として他の方と共に過ごし、共に楽しめるよう手助けしている。近隣からも歌謡ショーやコンサートの招待券が届けられている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診、看護、それ以外の急性期の疾患等に適切な医療が受けられている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1週間に2回の看護師の訪問があり、利用者の健康状態をくわしく伝え、必要なら病院受診する。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は本人のストレスや負担を軽減するよう、短期間に治療を行い、スムーズに退院できるよう病院や家族、本人と話し合い支援する。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の在り方については、早い段階から本人、家族等と話し合いを行い、書面で受け取っている。かかりつけの病院との支援体制が出来ている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	初期対応など頭では分かっているが、職員が焦ったりすることもあり、対応が出来ないこともある。内部研修によって実践力を高めていきたい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練をし、地域住民も参加していただく。夜間は部屋に車いすなどを置き、すぐに誘導できるように備えている。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の人格を尊重している。プライバシーに配慮しながら言葉をかけたり、個別の対応を心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の気持ちや、行いたいことが実現できるよう手助けしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者さんのペースで生活できるように支援している。生活のリズムを自分では作れなくなった人もおり、その場合はこちらでリズムを作ることもある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝や入浴時など着替えをするときには、本人に備えて頂いたり本人の希望を聞いて備えたりしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	お膳下げや食器拭きなど、入居者の能力に合わせて行っている。入居者の食事の好みをメニューに取り入れている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食べる量に合わせて提供している。水分摂取は時間を決めて行い、日報に記録して職員が把握できるようにしている。乾燥時や暑さなど、状況に合わせて水分量を増やすこともある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っているので、汚れや臭いはない。本人が洗えない方は職員が手伝っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の時間を日報に記録して、パターンをとらえている。時間を見てトイレにお誘いし、失敗体験を減らすようにしている。夜間は紙パンツを使わなければならない方もいるが、日中は全員が布パンツを使用している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の状況は回数、便の状態、排便量まで記録されている。十分に水分を摂り、運動し、出来るだけ自然排便できるよう支援している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午後の早い時間の入浴を好む人がいる一方、遅い時間を希望する人もいる。短時間の入浴を好む人もいれば、ゆっくり楽しみたい人もいる。出来る限り希望に沿うようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のリズムに合わせて休んで頂くようにしている。遅くまでテレビを見る人、なかなか寝付けなくて話し相手を求める人もいるが、その都度対応している。暖かい飲み物を提供することもある。季節に合わせた寝具を清潔に保っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を個人記録と一緒にファイリングし、飲み忘れや誤薬を防ぐよう記録している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	気分転換ができるよう散歩や、読書、編み物などを楽しまれている。レクリエーションを行い、楽しく日々を過ごせるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	暖かければ散歩やドライブに誘い、地域の催し物にも出かけていく。チラシを見ておやつ外食の行先をあれこれ話し合う場面も見られる。馴染の美容室に定期的に通う入所者さんもある。出来る限りの外出支援をしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布にお金があって安心する人もいるが、逆に不安になる人もいる。その人にとっての最良を行うことにしている。本人のおやつを買う時に同行したり、希望の店にお連れすることがある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方に住む家族から近況を知らせる手紙を受け取ると、とても喜んで何度も読み返し、職員にも聞かせてくれる。ぜひ返事を出した方が良いと勧めている。また、寂しくなると家族に手紙を書く入所者さんは、手紙が溜まるとまとめて家族に手渡している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間は窓が多く陽射しが良く入り、明るく温かさを感じて頂ける。季節の花を飾り、七夕やクリスマスの飾りや小物で時節を感じて頂けると思う。夜間は控えめな照明だが、灯りをたどっていくとトイレに行けるようになっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングとは別に多目的室があったり、離れた場所に観葉植物やソファが配置されていて、一人でくつろぐことができる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には個人の使い慣れた椅子や小物を持ち込むことができ、写真や本人の製作品、人形を置いて居心地良く過ごしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には名前と写真が張られ、本人が自室である事を確認できるようになっている。介助の際には自立性を考慮し、介助しすぎないことを大切にしているが、職員の観察力を更に培う必要がある。		